

大学院生の施設見学実習 受け入れ実施

去る 2009 年 8 月 25 日、当社 EAP センターは、専修大学大学院の学生さん(8 名)の施設見学実習を受け入れました。みなさん心理学を専攻しており、将来は臨床心理士を目指している方たちです。

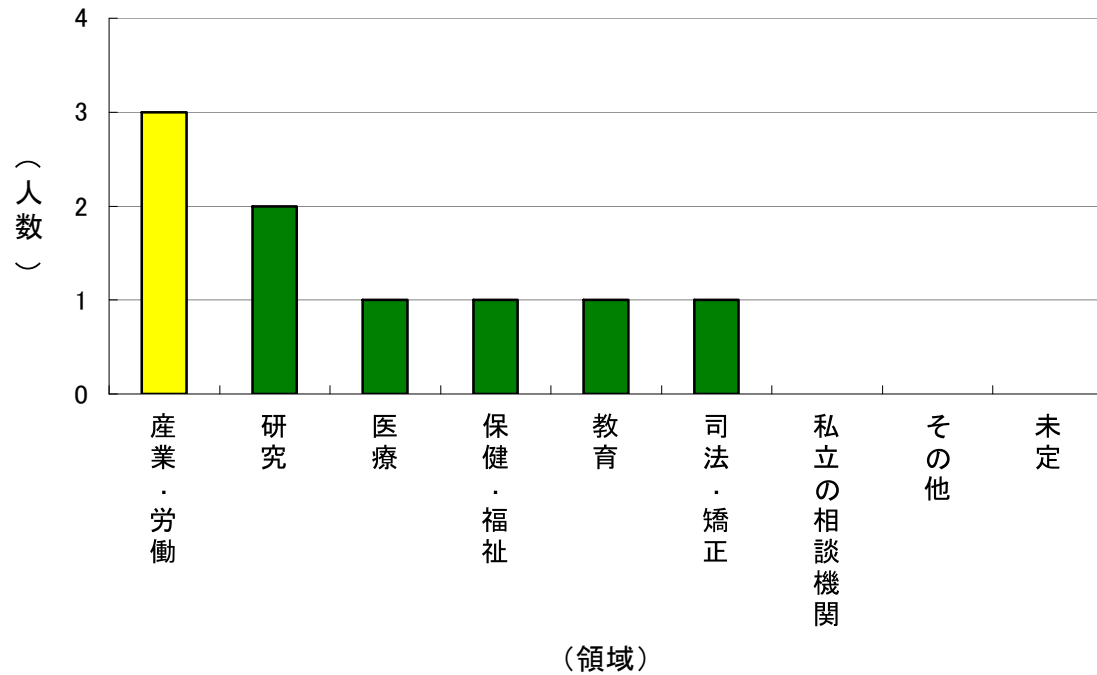
見学実習当日は、EAP センター部長より当社の沿革やサービスの概要について、EAP1 課課長より業務内容や当社における臨床心理士の役割について説明を行いました。その合間には、当社コールセンターや直営カウンセリングルームを見学しました。



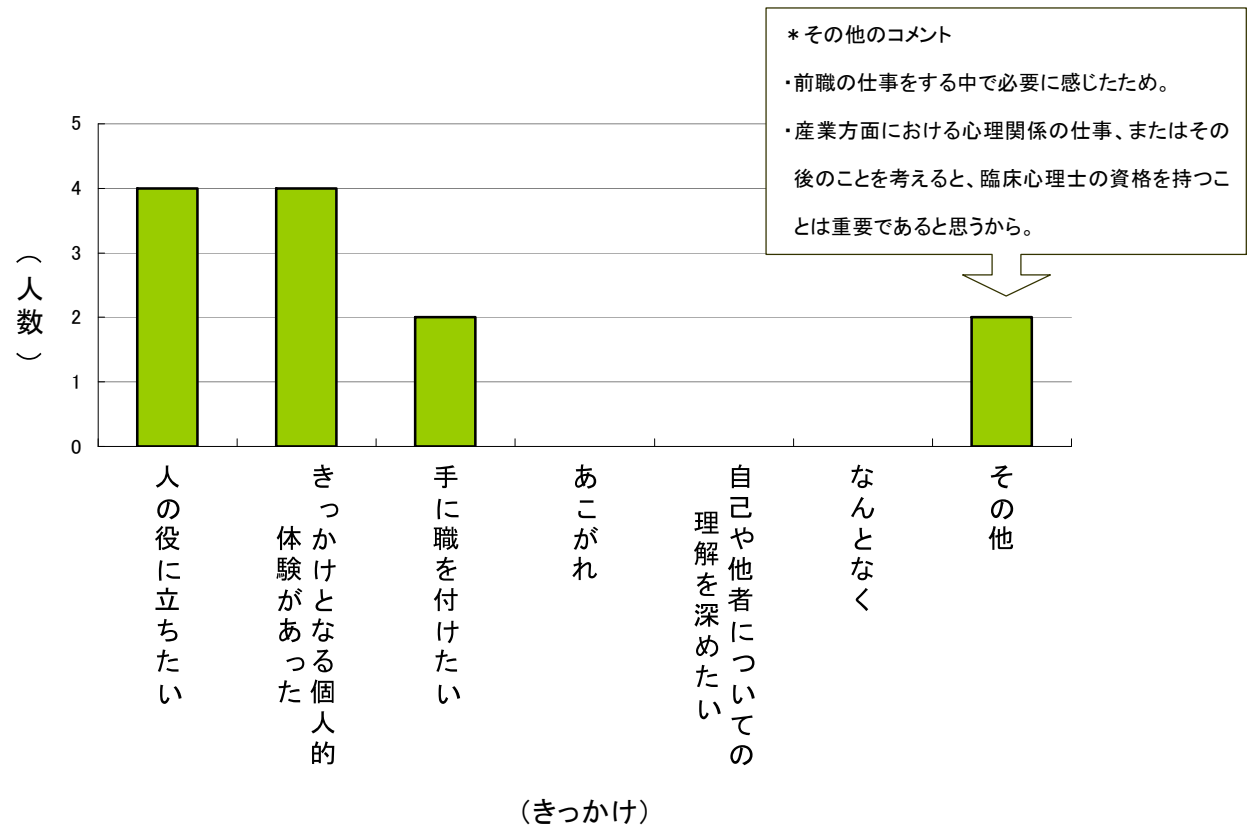
学生さんたちは熱心にメモを取り、見学の途中では相次いで質問する姿が見られました。実習の最後に設けた質疑応答では、「病院などの臨床と比べて難しいところはどういうところか」、「費用対効果の検証の手法はあるのか」など数多くの質問が寄せられ、臨床心理における産業領域への関心の高まりが窺えました。30 分を予定していた質疑応答時間はあっという間に終了し、参加者へのアンケートには「貴重な話が聞けて、非常に勉強になった」、「EAP という単語はよく耳にするもののその実態はわかっていなかったの、今回その理解が深まったように思う」、「今後も産業分野の勉強を続けていきたい」等の意見が書かれました。

◆ アンケート結果

● 大学院修了後に進みたい領域(複数回答可)



● 臨床心理士を目指そうと思ったきっかけ(複数回答可)



● 見学実習の感想(抜粋)

- ・ EAP について詳しい内容を耳にするチャンスが少ないので大変参考になった。臨床心理士の仕事の広がりについても考えさせられた。
- ・ 前職で人材業界でのコーディネーター(キャリアカウンセリング)をしており、メンタルヘルスの重要性を感じていた。派遣労働者の方のメンタルヘルスも最近アンバランスになりがちということもあり、派遣会社にティーベックのサービスの活用が広がればと思った。
- ・ EAP については以前から大変興味・関心があった。本日はサービス内容の具体的な説明だけでなく、コールセンターの見学もでき有意義だった。会社員を中心とした労働者の福祉的な面を担うのと同時に、対企業向けのビジネスであることに、事業としての難しさを感じるが、だからこそ、この 2 点のバランスを取り両立をはかる道が開ければ、社会的な意義がいつそう高まる領域だと感じた。
- ・ 普段から産業方面での心理職について関心があったので、とても楽しみにしていた。今日の施設見学はその期待をはるかに上回るもので、十二分に満足することができた。特に、団体との契約を結ぶがゆえの、その個人に対するカウンセリングの難しさはとても興味深いものだった。
- ・ EAP という単語はよく耳にするものの、その実態はわかっていなかったもので、今回それについて理解が深まった。産業領域での心理は、実際に企業で働いたことのない人間には難しい領域なのではないかと考えていた。今回の見学でそれだけが産業領域ではないことがわかった。将来産業領域にも進んでみたいと感じた。
- ・ 産業における臨床心理士の役割というものを漠然としかわかっていなかったが、多岐に渡るアプローチがあることがわかった。電話相談という手軽な方法の裏にある苦悩の話が印象的だった。今度は予備知識を得て、もう一度深い話を聞きたい。
- ・ 企業で数年務めてから大学院に入学した。前職では不調をきたした社員に対する会社の対応は後手後手だったように思う。EAP がもっと普及してほしいと切実に思う。
- ・ 産業領域で心理職がどのような仕事を行っているかといったことを理解することができた。医療や教育と比べてまだ新しい臨床分野であるための課題や業務の難しさを臨床心理士から直に聞くことができ、理解を深めることができた。
- ・ 仕事の内容をはじめ設備や相談システムなど新鮮だった。電話相談で問題を解決するというと、緊急度が高いようなイメージがあったが、そのような内容だけではなく、管理職側への対応についてアドバイスするなど、自分の悩みを相談するだけではなく受け入れ方についても対応できるという点に驚いた。EAP の相談活動には、かなり幅広い対応力が求められるという印象を抱いた。

以上